



## 2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月13日

上場会社名 トレイダーズホールディングス株式会社  
 コード番号 8704 URL <http://www.tradershd.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金丸 勲  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 CFO (氏名) 朝倉 基治  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-4330-4700

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	4,595	72.1	4,194	68.5	1,707		1,660		1,431	
2019年3月期第3四半期	2,670	96.5	2,489	116.3	48		92		911	

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,427百万円 ( %) 2019年3月期第3四半期 914百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	9.82	
2019年3月期第3四半期	8.80	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	52,596	4,718	9.0	32.35
2019年3月期	36,973	3,289	8.9	22.55

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 4,716百万円 2019年3月期 3,287百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,920	27.2	1,940	82.8	1,880	117.5	1,540		10.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	145,804,736 株	2019年3月期	145,804,736 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	14,585 株	2019年3月期	14,585 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	145,790,151 株	2019年3月期3Q	103,612,530 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続かなかで各種政策の効果もあり緩やかな回復基調が続いたものの、米中通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱に起因する海外経済の不確実性等があり、先行き不透明な状況で推移しました。一方、海外景気は、中国において緩やかな経済減速が続く中、アジア地域で景気が弱含む傾向がみられましたが、全体としては、速度は鈍化したものの緩やかな回復となりました。

外国為替（以下、「FX」といいます。）市場におきましては、2019年10月に1米ドル＝107円台で始まった米ドル/円相場は、米国経済の減速懸念からドル売りが強まると、ドル/円は一時106円48銭まで下落しましたが、Brexitを巡り英国・EUの離脱合意観測が浮上すると円安が進行し、ドル/円は108円台後半まで上昇しました。その後、英国離脱合意成立後に英国下院が離脱法案の採決先送りを決定するなどBrexit関連報道を受けてポンド/円が上下に大きく振れた一方で、ドル/円は動意が薄く108円台半ばを中心とした小動きが続きました。11月に入り、米中通商協議に関しポジティブな報道が相次いだことで、ドル/円は107円台後半から108円台後半まで上昇し、米中が段階的な関税撤廃に合意したことが報じられると、ドル/円は109円台半ばまで上値を伸ばしました。さらに、主要株式市場の上昇や堅調な米国経済指標を背景にドル/円はじり高の展開となり、一時約半年振りとなる109円61銭まで上昇しました。12月には、英国総選挙で保守党が勝利したことも円売り要因となり、ドル/円は一時109円70銭台まで上値を伸ばしましたが、月後半は、109円台半ばを中心とした狭いレンジ内で推移し、欧米がクリスマス休暇を迎えて取引閑散となる中、年末にかけてはやや円高方向に進み、当第3四半期連結会計期間末は1米ドル＝108円61銭で取引を終了しました。

このような市場環境のもと、当社グループの主力事業であるFX取引事業を中核とする金融商品取引事業は、子会社であるトレーダーズ証券株式会社（以下、「トレーダーズ証券」といいます。）において、『みんなのFX』（FX証拠金取引）、『LIGHT FX』（FX証拠金取引）、『みんなのシストレ』（自動売買ツールを利用したFX証拠金取引）及び『みんなのオプション』（FXオプション取引）のサービスを提供し収益確保を図ってまいりました。FX収益を確保する上で重要となるFX顧客からの預り資産は、当第3四半期連結会計期間末において46,785,132千円（前連結会計年度末比14,046,049千円増）まで増加しました。当第3四半期連結累計期間のトレーディング損益は、上記預り資産の増加による収益機会の増加が寄与し4,138,026千円（前年同期比1,601,062千円増、63.1%増）と前年同期を大きく上回りました。

一方、子会社である株式会社ZEエナジー（以下、「ZEエナジー」といいます。）が営む再生可能エネルギー関連事業は、『もがみまち里山発電所』の木質バイオマスガス発電装置において事業の採算性を確保できる発電が行えるよう継続して改良作業を進めてまいりましたが、目標とする発電量を達成するまでにはいたりませんでした。しかし、当第3四半期連結累計期間において炭化装置等の売上により営業収益は、99,470千円（前年同期比89,754千円増、923.8%増）となりました。

また、子会社である株式会社Nextop.Asia（以下、「Nextop.Asia」といいます。）が営むシステム開発・システムコンサルティング事業は、トレーダーズ証券向けにFX取引システムの開発を行うとともに、外部顧客向けに仮想通貨取引に関連したシステム開発を行い収益の確保を図ってまいりました。当第3四半期連結累計期間のシステム開発・システムコンサルティング事業における外部顧客に対する営業収益は、318,717千円（前年同期比224,775千円増、239.3%増）と前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、営業収益合計は、4,595,412千円（前年同期比1,924,778千円増、72.1%増）となり、金融費用、原価等を差し引いた純営業収益合計は、4,194,216千円（前年同期比1,704,375千円増、68.5%増）となりました。

一方、販売費及び一般管理費は、事務費において前年同期に計上した外部調査委員会費用の発生がなくなり72,207千円（前年同期比192,377千円減、72.7%減）に減少したことや、のれん償却が2018年11月に終了したことで計上がなくなりました（前年同期比164,138千円減）が、FX取引事業において、顧客取引及び顧客預り資産の増加を図るため広告宣伝費を増加させたことから、取引関係費が984,764千円（前年同期比347,599千円増、54.6%増）に増加したこと等により、2,486,603千円（前年同期比45,624千円増、1.9%増）と前年同期に比べ増加しました。

その結果、営業利益は1,707,613千円（前年同期比1,658,751千円増）となりました。

営業外費用は、2019年3月に借入金2,084,800千円をデット・エクイティ・スワップにより株式化したことから、支払利息が47,498千円（前年同期比76,129千円減、61.6%減）に減少したこと及び為替差損が1,950千円（前年同期比30,084千円減、93.9%減）に減少したこと等により、55,450千円（前年同期比110,103千円減、66.5%減）となりました。

その結果、経常利益は1,660,391千円（前年同期は、92,378千円の経常損失）となりました。

当第3四半期連結累計期間において、特別利益及び特別損失の計上はありませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は1,431,626千円（前年同期は、911,634千円の損失）となりました。

(金融商品取引事業)

トレーダーズ証券が営む当セグメントの営業収益は4,170,804千円(前年同期比1,618,875千円増、63.4%増)、セグメント利益は1,612,636千円(前年同期比752,423千円増、87.5%増)となりました。

なお、FX取引事業の当第3四半期連結会計期間末における顧客口座数、預り資産は以下のとおりとなりました。

顧客口座数	374,473口座	(前連結会計年度末比	31,713口座増)
預り資産	46,785,132千円	(前連結会計年度末比	14,046,049千円増)

(再生可能エネルギー関連事業)

ZEエナジーが営む当セグメントの営業収益は99,740千円(前年同期比89,754千円増、89.8%増)、セグメント損失は228,027千円(前年同期は306,191千円の損失)となりました。

(システム開発・システムコンサルティング事業)

Nextop.Asiaが営む当セグメントの営業収益は1,205,927千円(前年同期比627,740千円増、108.6%増)となりました。同収益の内訳は、グループ会社であるトレーダーズ証券に対するFX取引システムの開発・保守運用等の売上が887,210千円(前年同期比402,965千円増、83.2%増)、外部顧客に対する売上が318,717千円(前年同期比224,775千円増、239.3%増)となり、セグメント利益は396,585千円(前年同期は140,056千円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して15,623,184千円増加し52,596,217千円となりました。これは主に、現金及び預金が846,160千円増加したこと、FX取引にかかる顧客分別金信託が14,285,000千円増加したこと及びFX取引等にかかる短期差入保証金が433,707千円増加したこと等によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して14,194,296千円増加し47,877,702千円となりました。これは主に、外国為替受入証拠金が13,489,862千円増加したこと及び短期借入金が796,000千円増加したこと等によります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して1,428,887千円増加し4,718,514千円となりました。これは主に、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益が1,431,626千円となったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2019年11月14日公表の2020年3月期通期連結業績予想を修正いたしました。詳細は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,630,089	2,476,250
完成工事未収入金	20,476	—
たな卸資産	5,170	17,284
材料貯蔵品	0	0
商品	610	591
仕掛品	—	16,692
未成工事支出金	4,559	—
預託金	30,990,102	45,275,232
顧客分別金信託	30,985,000	45,270,000
その他の預託金	5,102	5,232
トレーディング商品	276,905	17,908
短期差入保証金	2,795,311	3,229,018
外国為替差入証拠金	2,711,335	3,229,018
その他の差入保証金	83,976	—
その他	381,985	472,882
貸倒引当金	△8,547	△8,547
<b>流動資産計</b>	<b>36,091,493</b>	<b>51,480,028</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	33,773	38,964
建物	48,228	52,800
減価償却累計額	△34,741	△37,004
建物(純額)	13,486	15,795
機械装置及び運搬具	17,977	17,986
減価償却累計額	△17,457	△17,700
機械装置及び運搬具(純額)	520	286
工具、器具及び備品	68,280	78,835
減価償却累計額	△50,236	△56,970
工具、器具及び備品(純額)	18,043	21,864
土地	0	0
リース資産	184,515	184,515
減価償却累計額	△182,791	△183,496
リース資産(純額)	1,723	1,018
無形固定資産	466,386	480,215
ソフトウェア	465,453	418,614
その他	932	61,601
投資その他の資産	378,255	597,007
投資有価証券	138,458	235,344
長期立替金	224,476	223,441
繰延税金資産	177,033	289,066
その他	63,603	73,589
貸倒引当金	△225,316	△224,434
<b>固定資産計</b>	<b>878,415</b>	<b>1,116,188</b>
<b>繰延資産</b>		
開業費	3,123	—
<b>繰延資産計</b>	<b>3,123</b>	<b>—</b>
<b>資産合計</b>	<b>36,973,032</b>	<b>52,596,217</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
トレーディング商品	550,405	685,106
預り金	134,232	32,911
顧客からの預り金	180	180
その他の預り金	134,052	32,731
受入保証金	31,298,682	44,741,388
外国為替受入証拠金	31,251,525	44,741,388
その他の受入保証金	47,157	—
短期借入金	115,000	911,000
1年内返済予定の長期借入金	130,836	30,866
リース債務	1,017	1,073
未払法人税等	376,854	203,642
その他	353,530	306,298
流動負債計	32,960,560	46,912,288
固定負債		
社債	250,000	500,000
長期借入金	390,027	386,873
リース債務	905	93
退職給付に係る負債	24,276	26,491
その他	57,635	51,955
固定負債計	722,845	965,413
負債合計	33,683,405	47,877,702
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,329,587	1,500,000
資本剰余金	7,593,230	842,120
利益剰余金	△10,629,347	2,382,977
自己株式	△3,178	△3,178
株主資本合計	3,290,292	4,721,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56	—
為替換算調整勘定	△2,713	△5,524
その他の包括利益累計額合計	△2,657	△5,524
非支配株主持分	1,992	2,120
純資産合計	3,289,627	4,718,514
負債・純資産合計	36,973,032	52,596,217

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業収益</b>		
受入手数料	12,966	24,094
トレーディング損益	2,536,963	4,138,026
金融収益	1,577	4,050
完成工事高	7,245	91,016
その他の売上高	99,916	327,089
その他	11,963	11,133
営業収益計	2,670,633	4,595,412
<b>金融費用</b>	6,198	35,801
完成工事原価	87,792	136,830
その他の原価	86,800	228,563
純営業収益	2,489,841	4,194,216
<b>販売費及び一般管理費</b>		
取引関係費	637,165	984,764
人件費	782,102	817,568
不動産関係費	300,027	312,433
事務費	264,584	72,207
減価償却費	135,999	134,606
のれん償却額	164,138	—
租税公課	59,407	80,038
その他	97,552	84,984
販売費及び一般管理費合計	2,440,978	2,486,603
営業利益	48,862	1,707,613
<b>営業外収益</b>		
受取利息及び配当金	4,952	6,116
受取保険金	13,643	—
その他	5,717	2,111
営業外収益合計	24,313	8,228
<b>営業外費用</b>		
支払利息	123,628	47,498
為替差損	32,034	1,950
資金調達費用	6,535	—
開業費償却	3,123	3,079
その他	231	2,921
営業外費用合計	165,554	55,450
経常利益又は経常損失(△)	△92,378	1,660,391
<b>特別利益</b>		
関係会社株式売却益	44,373	—
新株予約権戻入益	4,445	—
特別利益計	48,818	—
<b>特別損失</b>		
減損損失	115,605	—
課徴金	131,700	—
たな卸資産評価損	479,974	—
投資有価証券評価損	1,524	—
特別損失計	728,804	—
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△772,364	1,660,391
法人税、住民税及び事業税	139,841	341,843
法人税等調整額	—	△112,033
法人税等合計	139,841	229,810
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△912,205	1,430,581
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△571	△1,044
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△911,634	1,431,626

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△912,205	1,430,581
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△27	△56
為替換算調整勘定	△2,474	△2,816
その他の包括利益合計	△2,501	△2,872
四半期包括利益	△914,707	1,427,709
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△914,109	1,428,759
非支配株主に係る四半期包括利益	△598	△1,050

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権及び転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ317,239千円増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が5,287,187千円、資本準備金が6,537,358千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

2019年6月25日開催の第20回定時株主総会において、資本金及び資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について承認可決され、2019年7月30日付で効力が発生しており、資本金及び資本準備金がそれぞれ4,829,587千円、7,079,758千円減少し、繰越利益剰余金が11,580,698千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が1,500,000千円、資本準備金が500,000千円となっております。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	金融商品 取引事業	再生可能 エネルギー 関連事業	システム開発 ・システム コンサルティング事業	計				
営業収益								
外部顧客に対する 営業収益	2,551,928	9,715	93,942	2,655,586	13,846	2,669,433	1,200	2,670,633
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	—	270	484,244	484,514	20,578	505,093	△505,093	—
計	2,551,928	9,985	578,187	3,140,101	34,425	3,174,526	△503,893	2,670,633
セグメント利益 又は損失(△)	860,212	△306,191	△140,056	413,964	△102,230	311,734	△262,871	48,862

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外金融商品取引事業、電子機器レンタル事業、管理事務受託事業、投資事業、仮想通貨取引事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△262,871千円には、セグメント間取引消去、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	金融商品 取引事業	再生可能 エネルギー 関連事業	システム開発 ・システム コンサルティング事業	計				
営業収益								
外部顧客に対する 営業収益	4,170,804	99,470	318,717	4,588,992	6,420	4,595,412	—	4,595,412
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	—	270	887,210	887,480	24,882	912,362	△912,362	—
計	4,170,804	99,740	1,205,927	5,476,472	31,302	5,507,774	△912,362	4,595,412
セグメント利益 又は損失(△)	1,612,636	△228,027	396,585	1,781,194	△23,955	1,757,238	△49,624	1,707,613

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外金融商品取引事業、電子機器レンタル事業、管理事務受託事業、投資事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△49,624千円には、セグメント間取引消去、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第3四半期連結累計期間において、トレイダーズ証券における外国為替受入証拠金の増加に伴う顧客分別信託の増加等により、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間末日の報告セグメントの資産の金額は、「金融商品取引事業」において15,700,660千円増加しております。